

婦人会報

令和七年
8月2025年
立教188年



天理教婦人会旭日支部

通巻554号

天理教旭日大教会創立百三十周年記念祭における

真柱様のメッセージ

(大亮様代読)

本日は、旭日大教会創立百三十周年記念祭が勤められまして、誠にめでとうございます。今日の記念祭にあたりまして真柱様からメッセージを預かってきましたので、今から代読をさせていただきます。

日頃は、道の上のいろいろとご丹精くださり、誠に御苦労様です。また、今日は旭日大教会創立百三十周年記念祭が勤められ、心よりお慶び申し上げます。記念祭にあたって思うところを書面を持ってお伝えしたいと思います。

さて、「道は末代」と私たちはお聞かせていただいています。が、末代という言葉には、いつまでも続くというような意味があります。そこから考えるならば、今日は、これまで続いていた旭日の道が、これから続くためには、どのような心で歩んでいくのかを思案し、今後の進み方を考え、確認し合う機会であると思います。

そこでまず、考えなければならないことは、教会を設立しよ

うと思い立って願い出た、当時の人々の気持ちはどうであったかということでもあります。

どうしてもしんぐするならば

かうをむすばやないかいな

五下り目 10

と、お示しくくださるように、もともと講や教会というものは、親神様の不思議なご守護をいただいて、身上や事情からたすけられた人々の、なんとしてもこの信仰を続けて、おたすけくださった御恩にお応えしたいという、自発的な気持ちから生まれたものであります。そして寄り集まるための場所を作り、そこを足場に、更に信仰を深め、一人でも多くの人を手引きして、教えを広めていこうという決意が、教会設立の願いになったと思うのであります。親神様は、人々の決意をお受け取りくださり、末代続く理として、教会名称の理をお許しくださいました。私たちは、この親神様の御心をよく聞き分けなければならないと思うのであります。

教会が末代、すなわち先永く続いていくということは、名前だけでも残っていればよいということではありません。親神様が末代かけて教会を許されたということは、時代が変わっても、人の顔ぶれが替わっても、教会に出入りする人の心が、教会設立を願い出た人の心と変わることはないように努力せよ、という思召ではないかと思うのであります。

年月が経ち、人の代が替わり、昔の記憶も失われていくと、考え方に変化が表れてくるのは自然なことかもしれません。しかし、親神様の思召を体し、教祖のひながたを心の拠り所に

しているお互いが、昔と今とは違うから、同じように考えてやっていくことはできないというのは、信仰的な考え方とは思えないのであります。

旭日の道は一日にしてなったのではなく、百三十年の長い年月、皆さん方の先祖先人たちが、教祖のひながたを慕って、たすけ一条に道を通り、勤めてきたからこそ、今日があるのであります。この先人達の心を受け継ぎ、その足跡の上に立って、新しく道を延ばして、少しでも成人の歩みを進め、それと共に、後に続いて歩む人を責任を持って育てていくことが、皆さん方の役目であると思います。

教会に寄り集まる人の顔ぶれや、教会の建物や場所が変わっても、変わってはならないのは、教会に関わる人の心です。教祖の教えは変わることはいないのであります。しかし、人の心は変わりやすく、時折思い直すことが必要だと思っています。自分たちは毎日一生懸命につとめているつもりであっても、知らず知らずのうちに、最初目的としたのとは違う所へ進むようなことをしているかもしれません。それが小さなずれであつても、そのことに気づかずに進んでしまったならば、やがては大きな狂いとなり、目的地を見失って、大変な結果を招いてしまうことにもなりかねないのであります。

ですから、今日を、自分たちの心を確認する機会と考えて、この教会が歩んできた歴史と、その時々の人々の心を振り返っていただきたいのであります。そして、今の教会のあり方、進み方が、設立当初の心からずれていないかと謙虚に思い直し、

もし、ずれているところに気づいたならば、そこを正していってもらいたいのであります。

教会設立の時、初代の人たちが、親神様と交わした約束は、今の自分たちの約束であるとして、先人から引継いだ道を、教えに合わせてしっかりと通らせていただくことが、末代かけて教会をお許しくだされた親神様の思召に応えることになると思います。

旭日大教会の歩みはこれからも続いていくでありましょう。それがどう続いていくのかは、皆さん方のこれまでの道すがらに対する反省と、今後の歩み方に対する心定めに掛かっているといっても過言ではないと思います。

教祖百四十年祭の年祭活動も大詰めの中、創立百三十周年と言う節目を迎えた旭日の道が、この先も真つ直ぐに延びて、親神様の思召にかなう教会に一段と近づいていくように、勇んで教会活動を繰り広げてくださいますようお願いしてメッセージといたします。

以上が真柱様から預かってきたメッセージです。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

(文責 岡本善弘)

立教
188年6月1日

立教188年7月27日～8月3日



こども おちばがえり



今年も、みんなが待っていた「こどもおちばがえり」が、開催されました。
連日の暑い中、ひのきしん誠にありがとうございました。
また、受け入れにあたり、ふきんや洗剤も届けていただきありがとうございました。



ご飯の準備。唐揚げ・ポテト・クレープなど。おいしかったです！



お掃除をして帰参される皆さん
を受け入れます。

こどもおちばがえりの本部ひのきしんに、支部長様、
女子青年より松田十和さん、松田ひろのさん、山崎
ちかえさんが行かせていただきました。



暑い中たくさんの方のひのきしん、ありがとうございました。



暑さに負けず、いっぱい遊んだよ！

大教会のお楽しみ行事、お部屋タイムも楽しかったね☆



旭日鼓笛バンド 金賞
ポンポン 優秀演技賞

立教188年



全教一斉にをいがけデー

9月28日(日)29日(月)30日(火)



教祖140年祭活動の締めくくりに向けて、喜びの種まきに励まさせていただきます

今年の「にをいがけデー」用リーフレット「人のために尽くす生き方を」は、「人たすけたら我が身たすかる」との教祖のお言葉を引いたうえで、人のためにという優しく温かい心を親神様がお受け取りくださり、自らをたすけてくださることを伝える内容となっています。

にをいがけ実動前に、リーフレットに込められた思いをよくお読みになってからご活用ください。

リーフレットの裏面には、インスタグラムのリール動画を視聴できる二次元コードが掲載されています。

九月例会案内

日時 九月五日（金）午前十時
 場所 旭日大教会
 内容 教祖祭
 お願いづとめ
 ておどり前半下り
 お話（八つのほこり
 ほしい
 庄司 英美）



女子青年例会案内

日時 9月15日（月・祝）10時集合
 15時半頃解散
 内容 秋季霊祭参拝、
 コーヒーショップひのきしん、
 映画鑑賞（お楽しみ会食、
 デザート🍰）

旭日大教会ホームページより、カラー
 でご覧頂けます。ご活用下さいますよ
 うお願い致します。

URL <http://asahi49.net>



九月例会役割

扈者	庄司 典子	森下由紀子
賛者	前田 理恵	辻 花子
指図方	南本サツエ	
地方	前半	
笛	家城	
ちゃんぽん	家城	
拍子木	天満	
太鼓	天満	
すり鉦	斑鳩	
小鼓	斑鳩	
琴	神菅	
三味線	神菅	
胡弓	増田	

八月月次祭炊事当番

教会	旭波	直轄	吉日
係員	山村 信子	松田 直美	

◇係員の方は午前九時十分、会員の方は午前九時十五分までに
 エプロン三角巾を持参の上お越し下さい。

八月月次祭託児ひのきしん当番

教会	斑鳩	
係員	庄司 恵理	南 ともみ

◇午前九時より祭典終了までです。

楽しみの一つの種

楽しみの中に、一つ苦しみとも言ふやろ。又一つ、
苦しみの内に、楽しみの一つの種とも言ふ。

(おさしづ 明治33年8月11日)



発行日 令和七年八月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町一二八
天理教婦人会旭日支部